

## 成果指標設定調査

## 【成果指標の設定】

成果指標設定年度 26 年度

市町村名	蕨市			
提案事業名	ぐるっと埼玉サイクルネットワーク「南部まちなめぐりルート」活性化事業			
事業期間	26 年度	～	26 年度	
事業の必要性、目的	<p>県事業「ぐるっと埼玉サイクルネットワーク」は、交通安全・健康増進・地域の活性化を目的として、平成22年度から始まった事業である。本市においても、県（道路環境課、さいたま県土整備事務所、南部地域振興センター）との連携により、市内を中心に巡る「南部まちなめぐりルート」を考案し、平成23年度にルートの整備を行ったが、それ以降は、特に関連する施策は行っていない。</p> <p>本事業は、上記の現状を踏まえて、「南部まちなめぐりルート」のみどころスポットである歴史民俗資料館、南町桜並木の活性化と自転車の交通安全の向上に係る事業を行うことで、「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化を図るものである。</p> <p>平成26年度から始まる市の長期計画「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンは、まちの将来像として「安心とにぎわい 日本一のコンパクトシティ蕨」を掲げており、まちに安心とにぎわいを生み出す本事業は市の政策体系にも位置づけられるものである。</p>			
成果指標	（成果を検証する指標） 歴史民俗資料館の入館者数			
	（成果検証の具体的な方法） 歴史民俗資料館の年間入館者数により、南部まちなめぐりルート並びにまちの活性化を測る。			
	（上記の指標を設定した理由） 歴史民俗資料館は、南部まちなめぐりルートのみどころスポットであり、市の観光拠点でもあるため、ルート並びにまちの活性化の状況を測ることができる。			
	（成果の目標値）			
	現状値 （平成25年度）	35,167人	目標値 （平成26年度）	35,667人
	（施設建設等の場合）			
	年間利用者数（目標）（人）		稼働率（目標）（%）	
住民への公表方法及び特記事項	ホームページ			

## 【成果指標と構成事業の関連性】

平成26年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費（千円）
① 南町桜並木保存事業	ソフト 南町桜並木は、植樹されてから40年余り経過し、老木化が始まっているうえ、暗渠の上という狭い空間に植えられていることから、腐食が進む木も見られる。そこで、各町会・南町桜並木保存会等とも連携して、平成26年度から3カ年計画で、1)日当たり・風通しの確保（初年度：43本、約200m）、2)土壌改良・エアレーション設置（初年度：12本、約50m）などを行い、南町桜並木の保存を図る。 毎年桜まつりを開催するなど市の観光拠点である南町桜並木の活性化が図られることで、みどころスポットに位置付ける「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化に寄与すると考えられる。	1,350
② 歴史民俗資料館魅力発信事業	ソフト 歴史民俗資料館で開催するオースタムギャラリー「當摩源一郎個展」において、図録の作成・配布を行うとともに、特別展「安田尚平 田志朗 藤崎仁子 三人展」において、パンフレットの作成・配布を行う。當摩源一郎は、中山道など蕨の街並みの水彩画を主に描いていること、藤崎仁子は市内在住の織り作家であることから、蕨市の魅力を発信できる取り組みである。市の観光拠点である歴史民俗資料館の活性化が図られることで、みどころスポットに位置付ける「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化に寄与すると考えられる。	512
③ 自転車交通安全推進事業	ソフト 交通ルール・マナーを正しく理解することを目的とした自転車の安全運転の啓発リーフレットを作成し、市内の中学生・高校生などに配布することで、環境に優しく、健康づくりに役立つ自転車の安全利用の促進を図る。 市内の交通安全意識の向上が図られることで、自転車の利用促進につながり、「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化に寄与すると考えられる。	160
④ 南部まちなめぐりルートPR事業	ソフト 南部まちなめぐりルートをPRするため、以下の取り組みを行う。 ・南部まちなめぐりルートに関するチラシを作成し、歴史民俗資料館を含む市公共施設などに配布する。 ・公民館などが主催するサイクリング関連のイベントなどの機会を捉えて、上記チラシの配布とルート利用の呼びかけを行う。 ・広報蕨に、南部まちなめぐりルートの特集記事を掲載する。 南部まちなめぐりルートの周知が図られることで、当該ルート並びにまち全体の活性化に寄与すると考えられる。	0
	合計	2,022

## 【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	本事業について、ホームページ、広報紙、町会回覧などで積極的に周知を図るものとする。
成果指標の達成見込み	上記の方策を着実に実行すれば、成果指標を達成することは十分可能と考える。

(記入上の注意)

## 【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

## 【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、事業費の下に( )書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。